

氏名： 野口 徹 (NOGUCHI Tohru)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
職名： 准教授  
学位： Ph.D. (1995 マサチューセッツ大学アマースト校)  
専門分野： 文法理論 (統語論・意味論・形態論)  
E-mail： noguchi.toru@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

文法理論 / 生成文法 / 統語論 / 意味論 / 照応  
grammatical theory / generative grammar / syntax / semantics / anaphora

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

中心的なテーマである代名詞解釈を中心とした照応の問題について理解を深めるため、統語論と意味論の関係性を扱った文献に目を通し、考察を続けた。特に、最近問題となっている現象について、生成文法理論の枠組みで書かれた文献に目を通して、照応の問題との関連性を探った。

I looked into the literature on the syntax-semantics interface, in order to deepen my understanding of my major research interests in pronominal anaphora. I focused on current topics and their relation to pronominal anaphora within the framework of generative grammar.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

学部においては、コア科目「基礎英語 I 文 2a」および「基礎英語 II 文 1b」において英語の授業を担当し、学科共通科目「言語学概論」においては、言語文化学科所属の学生を対象に言語学の入門の授業を、「英文法演習」においては、英語圏言語文化コース所属の 2 年生を対象に統語論を中心とした英語学の入門の授業を行った。「特別演習（言語研究方法論）I」および「英語学特殊講義 VI」においては、同コース所属の 3 年生を対象に統語論の中級レベルの授業を行い、「特別演習（言語資料分析）II」においては、卒論作成中の学生に対する専門分野の指導を行った。また、教職に関する科目「英語科教育法 II」も他教員と共同で授業を行った。大学院においては、「英語学特論（文法論）」および「英語学演習（形態論）」において、比較的最近の文法理論に関する文献をいくつか取り上げ、詳細な検討を行った。

For undergraduate students, I taught classes such as "Basic English I/II," "Introduction to Linguistics," "Seminar: English Grammar," "Advanced Seminar: Methodology in Linguistic Research I," and "Special Lecture on English Linguistics VI." I also co-taught "English Teaching Methodology II." For graduate students, I taught "English Linguistics (Grammatical Theory): Advanced Lecture" and "English Linguistics (Morphology): Advanced Seminar." I also supervised seven BA theses in the area of English linguistics.

## ◆研究計画

これまで行ってきた研究課題により、再帰代名詞の中心的な性質がほぼ明らかになった。再帰形態素の意味的性質と形態統語的性質との相互作用からほぼ予測できるからである。しかし、再帰代名詞には、談話や視点に依存した用法や強調用法など、周辺的な用法もかなりある。また、言語間の違いについても十分考察を進める必要があり、また、他の統語的・意味的現象との関わりについても理解を深める必要がある。今後は、これまでに得られた成果を基に、これらの研究課題に取り組む予定である。

## ◆メッセージ

私が専門科目を担当している英語圏言語文化コースでは、英語学と英米文学を専門に学ぶことができます。私は、英語学の授業科目を担当していますが、理論言語学的な立場から、統語論、意味論、形態論などを授業では扱っています。一言で言えば、英語を人間のことばの一つとして捉え、英語を背後から支えている仕組みをできる限り客観的に明らかにしようという取り組みです。（一般的には、「生成文法」と呼ばれています。）英語に限らず、人間のことばには、表面を見ただけでは分からないような深い意味を持つ仕組みが潜んでいます。そのような「無意識の知識」を明らかにすることにより、英語とはどのような言語なのか、また、人間のことばにはどのような仕組みが働いているのか、学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。このような事柄に興味を持つ方を歓迎いたします。